

地震・津波災害への備え

大雨などで起こる洪水や土砂災害と違い、地震は突然発生するため予測が難しく、生き残るためには事前の対策がより重要となります。

災害時の死亡原因で多くの割合を占めている圧死。地震が起こったときに一瞬で命を奪われないように、もっとも身近で簡単にできる地震対策が家具類の転倒防止です。

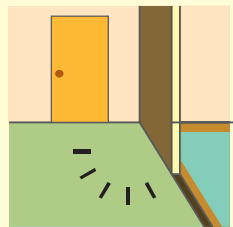
また、案外見落としがちなのが、家屋の耐震診断・耐震補強等の耐震対策です。建物全壊などの重大な被害を防ぐために、早めに安全対策を行ないましょう。

家族で知恵を出し合って対策を施し、安全・安心な暮らしを行いましょう。

被害を防ぐための空間づくり

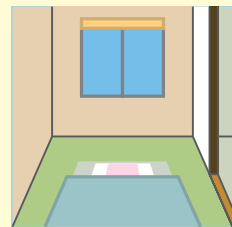
1 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように配置換えする。地震の際は、家具も凶器になると考える。



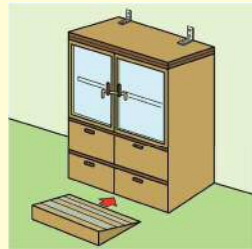
2 寝室、子供やお年寄りのいる部屋には、家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。地震が起こった瞬間に思わぬ怪我をする場合や、子供やお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。暗がりでの行動を想定しておく。



3 家具は倒れにくいように置く

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定する。畳の上に置く場合は、安定するように家具の下に板を敷く。



4 安全に避難できるように、出入口や通路には物を置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすい物を置かない。また、玄関にいろいろと物を置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



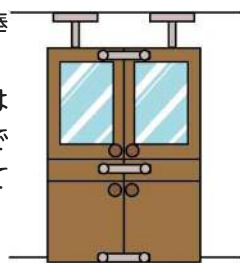
家具の転倒・落下を防ぐポイント

揺れている最中は、震度6弱で立っていることが困難になり、震度7では全ての自由が奪われ一歩も動けなくなります。重い家具は一瞬にして凶器となり、それを逃れても散乱する食器、ガラス類で重大な怪我を負うこともあります。

重いものや動いて欲しくないものは、梁に打ち付けることが有効です。震度7の揺れは、家具を固定した鎖がちぎれてしまうほどの破壊力を持っています。

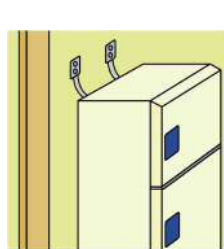
たんす・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合は繋ぎ目を金属でしっかり固定しておく。



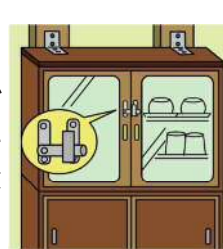
冷蔵庫

2ドアの場合は扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



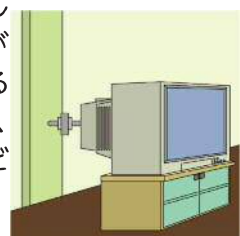
食器棚

L字金具で固定し、棚には滑りにくい材質のシートなどを敷く。扉は開かないように止め金具をつける。



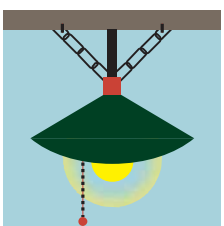
テレビ

低い位置に固定して置く。また、水がこぼれて発火する恐れがあるので、近くには水槽などを置かない。



照明器具

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



ストーブ

耐震自動消火装置を備えたものを使用する。移動・転倒の際に怪我を負わないよう、置き場所に注意する。

